

主要建設資材価格の動向

1. はじめに

主要建設資材価格の動向について、一般財団法人経済調査会発行の「月刊 積算資料」で発表している2021年7月調査結果を用いて考察した。

表一は、建設資材28資材の直近6カ月の東京地区（大口価格）の価格推移である。14品目で価格が上昇しているが、鋼材、油類、木材、鉄スクラップの高騰が目立つ。

2. 主要建設資材価格の動向

主要建設資材の価格動向（2021年7月調べ、東京地区・大口価格）は以下のとおり。

(1) H形鋼

価格は、200×100でt当たり9万5,000円と前月比5,000円の続伸。メーカーによる度重なる値上げに対し流通側が危機感を募らせたことで、2カ月連続の大幅な上伸となった。

表一 主要建設資材価格推移（東京地区・大口価格）

円（消費税抜き）

資材名	規格	単位	2月調べ	3月調べ	4月調べ	5月調べ	6月調べ	7月調べ	変動額 (7月価格-2月価格)
灯油	スタンド 18 ^{リットル} 缶	缶	1,422	1,458	1,476	1,476	1,476	1,494	72 円高 (5.1%)
A 重油	(一般) ローリー	kL	56,000	63,000	64,000	65,000	68,000	72,500	16,500 円高 (29.5%)
ガソリン (石油諸税込)	レギュラー スタンド	L	125	129	134	134	136	138	13 円高 (10.4%)
軽油 (石油諸税込)	ローリー	kL	89,000	96,000	97,000	98,000	101,000	105,500	16,500 円高 (18.5%)
異形棒鋼	SD295・D16	kg	78	78	78	79	85	88	10 円高 (12.8%)
H 形鋼 (細幅)	200×100×5.5×8 mm (SS400)	kg	83	83	83	83	90	95	12 円高 (14.5%)
H 形鋼 (広幅)	300×300×10×15 mm (SS400)	kg	83	83	83	83	90	95	12 円高 (14.5%)
普通鋼板 (厚板)	無規格 16~25 mm 3×6 フィート	kg	86	86	86	90	95	100	14 円高 (16.3%)
セメント	普通ポルトランド パラ	t	10,800	10,800	10,800	10,800	10,800	10,800	
コンクリート用砕石	20~5 mm (東京17区)	m ³	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	
コンクリート用砂	細目洗い (東京17区)	m ³	4,850	4,850	4,850	4,850	4,850	4,850	
クラッシュラン	40~0 mm (東京17区)	m ³	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	4,650	
再生クラッシュラン	40~0 mm (東京17区)	m ³	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200	
生コンクリート	強度 21 スランプ 18 cm 20(25) mm (東京17区)	m ³	14,700	14,700	14,700	14,700	14,700	14,700	
アスファルト混合物	密粒度 13 mm (東京都区内)	t	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	9,200	
再生加熱アスファルト混合物	再生密粒度 13 mm (東京都区内)	t	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	8,200	
ストレートアスファルト	針入度 60~80 ローリー	t	67,000	73,000	73,000	73,000	84,000	84,000	17,000 円高 (25.4%)
PHC パイル A 種	350×60 mm×10 m	本	29,600	29,600	29,600	29,600	29,600	29,600	
ヒューム管	外圧管 B 形 1 種 呼び径 300 mm	本	10,500	10,500	10,500	10,500	10,500	10,500	
鉄筋コンクリート U 形	300B 300×300×600 mm	個	1,580	1,580	1,580	1,580	1,580	1,580	
コンクリート積みブロック	滑面 250×400×350 mm	個	640	640	640	640	640	640	
正角材 杉 (KD)	3.0 m×10.5×10.5 cm 特 1 等	m ³	60,000	60,000	60,000	62,000	65,000	75,000	15,000 円高 (25.0%)
平角材 米松 (KD)	4.0 m×10.5(12)×15~24 cm 特 1 等	m ³	63,000	65,000	65,000	75,000	78,000	88,000	25,000 円高 (39.7%)
コンクリート型枠用合板	無塗装品 ラワン 12×900×1,800 mm	枚	1,220	1,240	1,270	1,310	1,370	1,420	200 円高 (16.4%)
電線・ケーブル	CV 600 V 3心 38 mm ²	m	1,207	1,280	1,352	1,352	1,425	1,484	277 円高 (22.9%)
鉄スクラップ	ヘビー H2	t	23,000	33,000	30,500	32,500	38,000	39,000	16,000 円高 (69.6%)
ガス管	白管ねじなし 25 A	本	1,840	1,840	1,840	1,840	1,840	1,840	
塩ビ管	一般管 VP 50 mm	本	1,230	1,230	1,230	1,230	1,230	1,230	

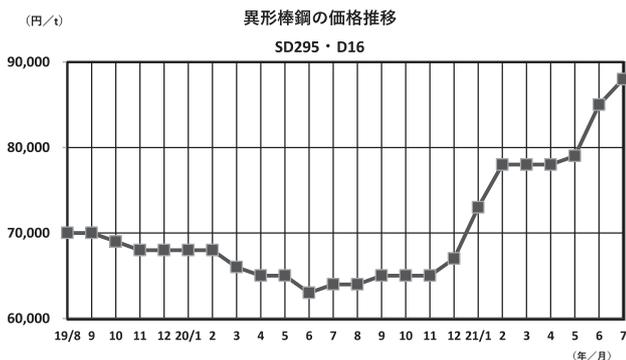
出典：(一財) 経済調査会『月刊 積算資料』

(注) 毎月 10 日までに得られた調査結果

統計

需要が徐々に回復の兆しをみせる中、需要者側は積極的に材料手配を進めており、市中在庫も減少傾向に転じている。このような中、製販側は、値上げ未達分の浸透に向け強気の販売姿勢を継続する構え。先行き、強含みで推移する公算が大きい。

(2) 異形棒鋼



価格は、SD295・D16で前月比3,000円高のt当たり8万8,000円どころと3カ月続伸した。主原料の鉄スクラップ価格の高騰を受け、製販側が強硬な販売姿勢に徹したことで、交渉は売り手主導で展開し、2008年以来の高値水準となった。

RC造などの中小物件の低迷が続く中、棒鋼相場の騰勢を背景とした駆け込み需要が一服。今後の荷動き回復への期待感は後退している。

足元では原料価格が高止まりしており、メーカー側の値上げに対する積極的な販売姿勢に変化はみられない。一方、需要者側は度重なる値上げに反発を強めており、急騰した相場の勢いは鈍化する中でも、じり高で推移するとの見方が大勢。先行き、強含みで推移する公算が大きい。

(3) セメント

セメント協会まとめによる5月の東京地区セメント販売量は14.1%増の19万7,478tと2カ月連続で前年同月比2桁増となった。前年のコロナ禍の影響による落ち込みに対する反動増に加えて、生コン向けの出荷が堅調であったことが要因。今後、都市再開発事業向けの引き合いが需要をけん引するとの見方が強い。

価格は、普通ポルトランド・バラでt当たり1万800円どころと前月比変わらず。販売側は過年度の値上げ未達分獲得に向け、価格交渉を継続している。しかし、主たる需要者側である生コンメーカーは、骨材の調達コスト増などにより収益が悪化しているとして、再値上げの受け入れには慎重な構えをみせている。先行き、横ばい推移の見通し。

(4) 生コンクリート

東京地区生コン協組調べによる6月の出荷量は、前年同月比17.5%増の23万3,327m³と3カ月連続で2桁増となった。出荷が伸長したのは、昨年、コロナ禍による工事の中止や延期の影響を受

けて落ち込んだ反動増に加え、複数の再開発事業が動き出したことが要因。当面は、これらの出荷が需要をけん引するとみられる。

価格は、21-18-20でm³当たり1万4,700円どころと前月比変わらず。同協組が昨春に打ち出した値上げ未達分の獲得に注力する中、流通側でも口銭が圧縮されている状況もあり、売り腰を引き締めている。しかし、すでに値上げの一部を受け入れている需要者側は、もう一段の引き上げに対して強い抵抗を示しており、交渉の進展には時間を要する見通し。先行き、横ばい推移の見通し。

(5) アスファルト混合物

5月の都内向けアスファルト混合物の製造数量は10万9,892tと前年同月比17.1%減（東京アスファルト材協調べ）。目立った大型物件が少ないことに加え、民需が減少したことが起因となり大幅減となった。今後も需要回復の見込みは薄く、出荷量は低調に推移する見通し。

価格は、再生密粒度(13)でt当たり8,200円と前月比変わらず。主原料のストアス価格が上昇する中、販売側は出荷減による固定費比率の上昇を理由に価格引き上げの機会をうかがっているものの、需給緩和の状況において需要者側の反応は冷ややかで、価格交渉に進展はみられない。先行き、横ばい推移の見通し。

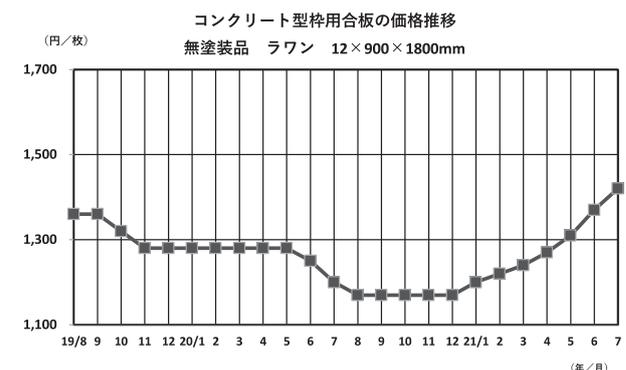
(6) 道路用砕石

需要は、新年度に入り一部河川工事向けがみられるものの、総じて工事物件が少なく低調に推移している。一方、コンクリート廃材の発生量は旺盛で、メーカー各社は在庫を豊富に抱えている状況。東京オリンピック・パラリンピック開催期間中は都心部の解体工事が減少しコンクリート塊の発生が減少することが見られるものの、当面は荷余りの状態が続く見込み。

価格は、再生クラッシュラン40～0mmでm³当たり1,200円どころと前月比変わらず。販売側は、車両の確保などのコスト増を背景に値上げの意向を示しているものの、在庫が豊富な状況では、売り腰を強めるまでには至っていない。先行き、横ばい推移の見通し。

(7) コンクリート型枠用合板

産地マレーシア全土における完全ロックダウンの発令により移動が制限される中、原木の出材は停滞。工場労働者の出社抑制もあり



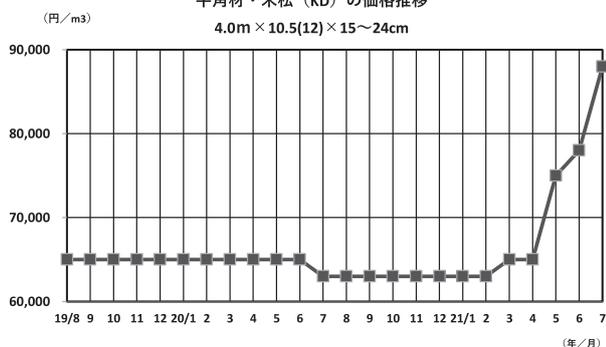
生産量が減少するなど出荷の遅れが生じている。また、中国やアメリカの需要増で原木不足に拍車が掛かり、産地価格は日ごとに上伸している。

こうした中、国内では市中の品薄感が解消されず、売り手優位の状況が継続。流通各社は高値仕入れ分の採算を確保すべく、販売価格を引き上げている。価格は、無塗装品ラワン 12×900×1,800 mm で枚当たり 1,420 円と前月比 50 円の続伸。

販売側は、上昇する仕入れコストに国内相場が追いついていないとして、さらに売り腰を強め価格の引き上げを目指す構え。先行き、強含みで推移する公算が大きい。

(8) 木材

平角材・米松 (KD) の価格推移
4.0m×10.5(12)×15~24cm



世界的なコンテナ不足や米国の旺盛な住宅需要の影響から輸入材の入荷量は依然として低水準で推移しており、木材の品不足は深刻化している。

米材は、日本国内の米松製材最大手が産地価格や船運賃の高騰を理由に、6月に4回目の値上げを実施。価格は、平角材・米松 (KD) 4.0 m×10.5 (12) ×15 ~ 24 cm 特1級で m³ 当たり 8万 8,000 円と前月比 1 万円の続伸。

国産材は輸入材の代替として注文が殺到しており、価格は正角材・杉 (KD) 3.0 m×10.5×10.5 cm 特1級で m³ 当たり 7万 5,000 円と前月比 1 万円の続伸。

現状、輸入材の入荷量が回復する兆しは乏しく、加えて国産材の生産能力には限りがあることから、需給のひっ迫は当面続くもよう。先行き、国産材・米材とも強含みで推移する公算が大きい。

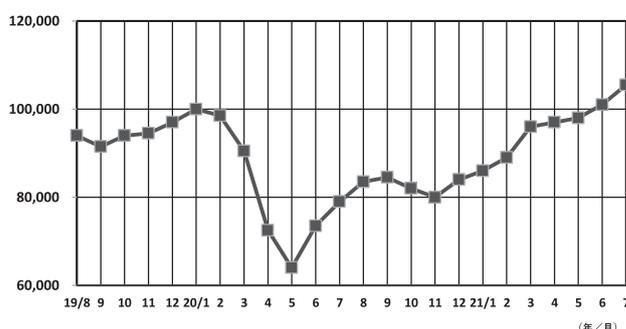
(9) 軽油

価格は、kL 当たり 10 万 5,500 円どころと前月比 4,500 円の続伸。元売卸価格が続伸したことを受け、流通業者側が価格転嫁を進めた。OPEC プラスの会合中止の影響で、原油相場の先高観はやや後退したこと、流通業者は現行価格水準を維持すべく採算重視の姿勢を継続する構えを示している。目先、横ばい推移の見通し。

(10) ガソリン (スタンド渡し)

価格は、レギュラーで ℓ 当たり 138 円 (消費税抜き) どころと前

軽油 (ローリー渡し) の価格推移



月比 2 円続伸。元売卸価格の騰勢が続く中、販売業者は価格転嫁すべく売り腰を強めたことから市況が上伸した。しかし、長引くコロナ禍による需要低迷の影響から、仕入れコストの上昇分を転嫁しづらい状況が続いている。先行き、横ばい推移の見通し。

(11) ガス管

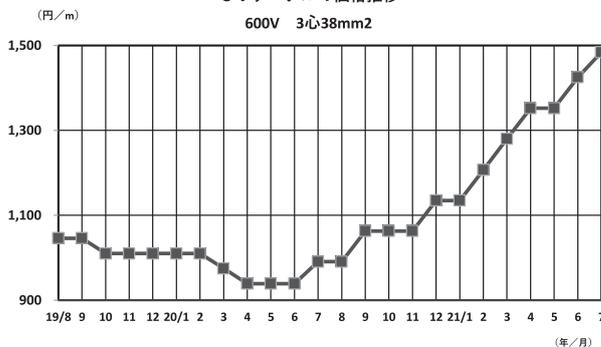
価格は、白管ねじなし 25 A で本当たり 1,840 円と前月比変わらず。先行き需要の不透明感から、荷動き、引き合いとも盛り上がり欠いている。高炉メーカーの追加値上げにより 7 月以降に高値玉が入庫することから、流通側は売り腰を強める構え。一方、需要者は慎重な姿勢を崩しておらず、先行き、横ばい推移の見通し。

(12) 塩ビ管

価格は、一般管 VP50 mm で本当たり 1,230 円と前月比変わらず。足元の荷動きは依然として鈍く、先行きの需要も不透明との声が大勢を占めている。メーカーが打ち出した値上げを受け、販売側は売り腰を強めているが、需要者側の購買姿勢は厳しいことから値上げ交渉は難航している。先行き、横ばい推移の見通し。

(13) 電線・ケーブル

CVケーブルの価格推移
600V 3心38mm2



日本電線工業会の電線受注出荷速報によると、建設・電販向けの 5 月推定出荷量は約 2 万 2,400 t と前年同月比約 3.3% の増加。16 カ月ぶりに前年実績を上回ったものの、前年実績が緊急事態宣言延長の影響を受けているため、需要回復の兆しはみられない。

統計

一方、7月初旬の国内電気銅建値はt当たり110万円と前月初旬比4万円下落。銅価の上昇基調は一服したものの、流通問屋は高値で仕入れた在庫を抱えており、未転嫁分を解消すべく売り腰を強めている。また、安値在庫が一掃されたことから、需要者側の値上げ受け入れが進み、CVケーブルの価格は、600V3心38mm²でm当たり1,484円と前月比4.1%の上伸となった。

今後も流通側は、採算確保を前提に慎重な姿勢で工事業者と価格交渉を進めるもよう。先行き、横ばい推移の見通し。

※各資材の価格推移グラフの出典は、『月刊 積算資料』。

3. おわりに

図一1は、建設工事で使用される資材について、その価格変動を捉えることを目的とした「建設資材価格指数(全国主要10都市)」である。建設資材需要原単位の対象資材を勘案し、建築資材25品目と土木資材24品目を選択している(表一2参照)。

建設資材価格指数は、2020年に入り下落に転じているが、鋼材や木材の価格上昇を受け、2021年は建築・土木とも大きく上昇している。

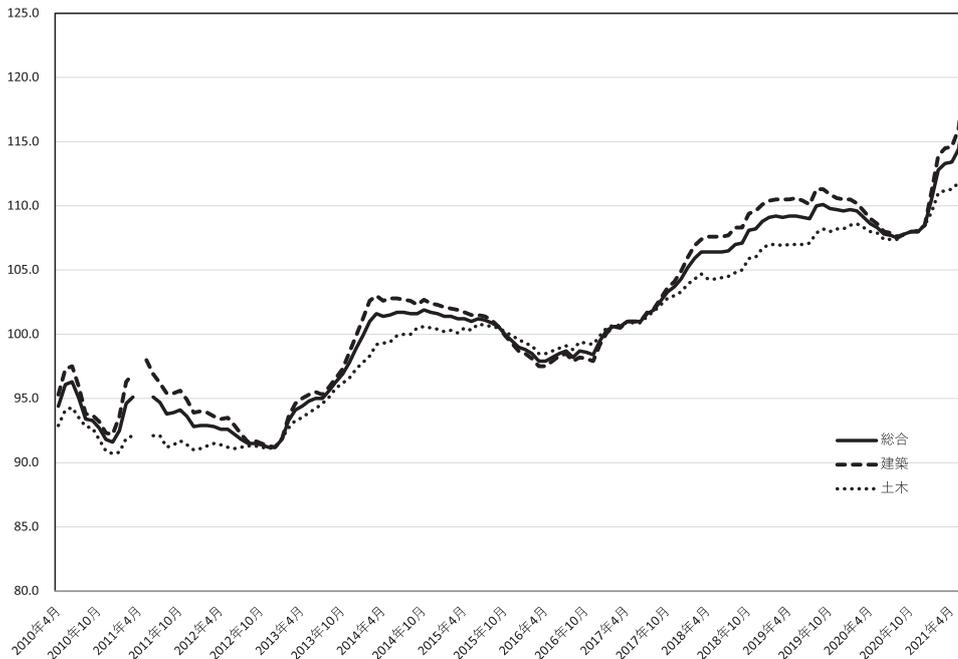
世界的な鋼材需要の増加で原料の鉄スクラップや鉄鉱石価格は高値圏で推移、鋼材価格はじり高の様相を呈している。また、産地の生産量が減少している型枠用合板や、アメリカの旺盛な木材需要とコンテナ不足によるウッドショックが深刻化している木材も価格が高騰している。新型コロナウイルスのワクチン接種が先行する欧米

などの経済活動回復にともなう原料高に対して各資材の流通価格は敏感に反応しており、先行きも建設資材価格の上昇基調は続く公算が大きい。

(文責：坂下)

表一2 建設資材価格指数の対象資材

①建築資材品目		②土木資材品目	
資材	品目	資材	品目
01.セメント	1 セメント	01.セメント	1 セメント
02.生コンクリート	2 生コンクリート	02.生コンクリート	2 生コンクリート
03.コンクリート二次製品	3 コンクリート管類	03.コンクリート二次製品	3 コンクリート管類
	4 コンクリートボール・パイプ		4 コンクリートボール・パイプ
	5 コンクリート縁石・側溝		5 道路用等コンクリート製品
	6 建築用空洞ブロック		6 土木コンクリートブロック
	7 インターロッキングブロック		7 インターロッキングブロック
04.骨材	8 砂	04.骨材	9 砂
	9 砕石		10 砕石
05.瀝青材	10 防水工事用アスファルト	05.瀝青材	11 ストレートアスファルト
06.再生アスファルト混合物	11 再生アスファルト混合物	06 再生アスファルト混合物	12 再生アスファルト混合物
07.普通鋼鋼材	12 H形鋼	07.普通鋼鋼材	13 H形鋼
	13 その他形鋼(除くH形鋼)		14 その他形鋼(除くH形鋼)
	14 鋼矢板		15 鋼矢板
	15 棒鋼		16 棒鋼
	16 構造用鋼管(含むコラム)		17 厚中板
08.仮設材	17 仮設材(H形鋼)	08.仮設材	18 鋼管杭・鋼管矢板
	18 仮設材(鋼矢板)		19 構造用鋼管(含むコラム)
	19 仮設材(その他)		20 その他鋼材
09.その他鋼材	20 その他鋼材	09.特殊鋼鋼材	21 仮設材(H形鋼)
	21 特殊鋼鋼材		22 仮設材(鋼矢板)
10.木材	22 製材(木造のみ)	10.特殊鋼鋼材	23 仮設材(その他)
	23 合板(厚6mm未満)		24 特殊鋼鋼材
	24 合板(厚6mm以上)		
	25 損料対象材(合板)		



(一財) 経済調査会「建築・土木総合指数」より作成。2015年度平均=100とした指数。
東日本大震災の影響により2011年4~5月データの一部に欠損が発生したため全国のグラフも欠損データとなっている。
詳細は、(一財) 経済調査会HP参照 (https://www.zai-keicho.or.jp/price_relative/)。

図一1 建設資材価格指数(全国主要10都市)